

【計画策定の背景】

万博記念公園のソメイヨシノをはじめとした桜は、関西圏の桜の名所として広く認知され、春季の誘客には欠かせないものとなっている。

しかしながら、植栽より **40 年以上経過**し、ソメイヨシノを中心に癌腫病や踏圧による土壌固結、栄養不足、高齢化などが原因で枝枯れや幹枯れが散見されるなど、樹形不良な桜が多数存在しており、桜の名所としての魅力を維持するためには、多くの花が咲くように樹形回復を行うなど、健全な桜の育成が不可欠な状況にある。

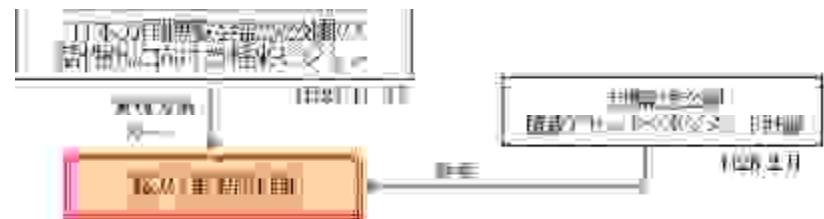
【計画の目的及び位置付け】

○目的

万博記念公園の代表的な誘客要素である桜について、桜の名所としての魅力を維持するため、現状の課題を踏まえ、健全な桜を育成し多くの花が咲き誇る美しい桜の景観を創出することを目的とする。

○位置付け

『日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン（以下「将来ビジョン」）』に掲げる“国内外から多くの人が訪れる公園”（「将来ビジョン」の基本方針4）の実現に向けた一つの取組方策。



【現状と課題】

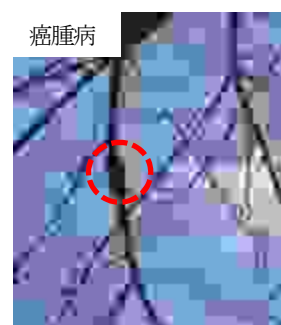
○現状（管理本数）

- 異なるデザインの桜の修景エリアが点在し、公園としてはバリエーションに富んだ桜の景色が見られる。
- 以前より樹勢改善に取り組んできた結果、一部の植栽エリアを除き樹勢は回復傾向にある。

	ソメイヨシノ	ヤマザクラ	サトザクラ	シダレザクラ	その他	計
自然文化園	862	172	90	42	174	1,340
日本庭園	81	15	31	3	102	232
周辺地区 (外周の無料区域)	912	107	93	0	7	1,119
計	1,855	294	214	45	283	2,691

○課題

- 癌腫病の防除・・・毎年、枝枯れとともに樹勢衰退の原因となる癌腫病が多数発症する為、対策が必要
- 樹形回復・・・毎年、枯損した枝や幹の切除を行うため樹形不良な樹木が多数存在し、樹形回復が必要



癌腫病発症

枝や幹の枯損
樹勢の低下樹形不良 ⇒ 枝数が低下
(枝や幹の欠損) ⇒ 花数が低下

【基本的な考え方】

桜並木や桜林、桜のシンボルツリーなど、桜の見せ方等の異なる特徴的な修景空間が園内に点在することで、人々を惹きつけ、公園を代表する集客力につながっていることから、現状課題を踏まえた上で、修景空間毎のポテンシャルを活かし発展させ、桜の名所にふさわしい魅力的な風景の展開を図る。

桜の風景づくりの取組は、樹木の生長や利用の影響などに応じた順応的な管理が求められることから、長い時間の中で継続的に進めていく必要があるため、持続的な管理体制の構築を図る。さらに、長い時間の中で多くの人々との関わりを促していき、愛着性を高めるとともに、歴史性や文化性を持った風景として育てていく。

◆ 既存ポテンシャルを活かし、桜の名所にふさわしい、人々を魅了する美しい桜のある風景づくり

◆ 多くの人々とともに長期にわたって桜を守り・育てるための体制づくり

【取組方策】

空間としての魅力を高めるため、修景エリア単位で目標景観（利用を含め）や取組方針を定めることとする。また、健全な桜の育成を目指し、取組方針については、以下の重点ポイントを踏まえた内容とする。

◆各修景エリアの取組の重点ポイント

重点ポイント1 定期的な生育状況等調査の実施

- 桜の健全性（存置要否含め）を把握する為、定期的に桜の生育状況の調査に取り組む（調査結果は管理に反映）。

重点ポイント2 日常的な癌腫病対策の実施

- 定期的に罹病枝を除去するとともに、病原菌の媒体害虫（コスカシバ）の駆除に取り組む。

重点ポイント3 目標景観に応じた樹形の回復及び維持の実施

- 目標景観を踏まえ、配植や生育の状況に応じて、植栽密度の改善、定期的に剪定（枝の更新）及び樹勢向上の為の施肥等（土壌改良含め）を行うと共に、樹形回復の可能性や景観への影響を考慮の上、計画的な植替にも取り組む。

重点ポイント4 新たな魅力付けの実施

- 新たに桜の新植やベンチの設置、イベントに合わせたコンテナガーデンなど、新たな魅力付けの為に積極的に取り組む。

◆主要な修景エリアの景の方向性のポイント

園の景

・桜下で眺め憩う空間



シンボルの景

・単木を眺める空間



修景

・面的な景色を眺める空間



並木の景

・通り抜けの空間



管理目標

◆ 桜の流れ_目標・・せせらぎを感じながら桜を眺め散策できる園路空間づくり

景観：流れと一体となった桜の並木景観の充実

利用：せせらぎや桜の花を眺めながら休憩や散策を楽しめる場の充実

◆ 桜の園_目標・・・桜林の中から園路沿いまで花を楽しめる空間づくり

景観：面的に花が広がるボリューム感のある桜林と林床の彩りの充実

利用：林床での花見や桜の通抜けが楽しめる場の充実

取組方針

【共通】

- ・目標の景観や利用を確保する為、必要な樹木管理や草地管理に係る日常的な作業を実施（例、日常的な巡視や定期調査、病害虫防除、剪定、施肥、伐採、草刈など）
- ・目標風景づくりのポイントに留意の上、府と指定管理者が一体となって管理及び整備を推進

【個別】

- 桜の流れ-
- ・新植されたサシ桜を生長させることに主眼を置き、定期的に施肥を行うとともに病害虫防除や最小限の剪定を実施
- ・既存のサシ柳が著しく樹形が崩れたり樹勢が低下した場合には、新たな魅力付けのためサシ桜に更新を図る
- 桜の園-
- ・当面（3年程度）は、樹形回復を主体に行い、その結果を基に植替又は補植の要否を判断（樹勢回復の為に土壌改良（50本程度/年）、結果を基に樹勢回復の継続又は植替にシフトかの判断）
- ・細園路沿いにおいて、一部、植栽間隔が空き過ぎているところは、早期に補植を実施
- ・計画的に既存のナツズイセンの分球・植付により植栽範囲を拡大（新たな魅力付けとなる林床景観の創出）

目標風景づくりのポイント

